

⑪ 公表特許公報 (A)

昭63-502211

⑤Int.Cl.
F 41 G 3/26
F 41 C 27/00
F 42 B 8/00

識別記号

厅内整理番号
7612-2C
7612-2C
6935-2C

⑫公表 昭和63年(1988)8月25日
審査請求 未請求
予備審査請求 未請求 部門(区分) 5 (3)
(全 11 頁)

⑬発明の名称 模擬射撃用の装置

⑭特 願 昭62-500814
⑮出 願 昭62(1987)1月13日

⑯翻訳文提出日 昭62(1987)9月17日

⑰国際出願 PCT/GB87/00011

⑱国際公開番号 WO87/04512

⑲国際公開日 昭62(1987)7月30日

優先権主張 ⑩1986年1月18日 ⑬イギリス(GB)⑩8601197

⑩発明者 ハンコツクス、ロジャー・ジョン
イギリス国ウェスト・ミドランズ ダフリュー・エス7・9ジエイ
ジエイ、バントウッド、チャーチ・ファーム、プライス・クロ
ーズ 4

⑪出願人 アクレス・アンド・シエルヴォ
ーク・リミテッド
イギリス国バーミンガム ビー6・4キユーディー、アストン、タ
ルフォード・ストリート・ワークス (番地なし)

⑫代理人 弁理士 湯浅 恒三 外4名

⑬指定国 A T(広域特許), A U, B E(広域特許), C H(広域特許), D E(広域特許), F R(広域特許), G B, G B(広域
特許), I T(広域特許), J P, L U(広域特許), N L(広域特許), S E(広域特許), U S

最終頁に統く

請求の範囲

1. 模擬射撃用に携帯兵器を改装するための装置であつて、該装置が、銃の銃身からの放射線の発射を提供するため電磁放射線の放射体(17、17'、41、91、113)と、及び該放射体のための電気エネルギー源(6、23、92、92')とを含み、前記装置が、前記携帯兵器内に収容されるよう適合されて、かつ前記携帯兵器の発砲時に前記放射体(17、17'、41、91、113)が作動されるような配置にされており、前記エネルギー源がコンデンサ(6、23)から成ること、を特徴とする携帯兵器を改装するための装置。

2. 請求の範囲第1項記載の装置において、前記銃に在来の方法で装填できる少なくとも1つのダミー弾包(2、20)を含み、また前記コンデンサ(6、23)が前記ダミー弾包内に収容されていること、を特徴とする携帯兵器を改装するための装置。

3. 請求の範囲第2項記載の装置において、前記銃の前記銃身内にはまるよう適合された別の銃身ユニット(1、38)を含み、前記の放射線の放射体(17、17'、41)を付勢するため、前記銃内の発砲位置に配置されたダミー弾包(2、20)の前記コンデンサ(6、23)を前記銃身ユニット(1、38)へ電気的に接続するための手段(12、15、30、33)が設けられていること、を特徴とする携帯兵器を改装するための装置。

4. 請求の範囲第3項記載の装置において、前記ダ

ミー弾包から突き出て前記銃身ユニット(1、38)の後部にある適当な電気接点(15、44、45)と電気接続することできること、を特徴とする携帯兵器を改装するための装置。

5. 請求の範囲第4項記載の装置において、前記のスプリングで偏倚させられた電気接点(11、30、33)は、同軸の筒状接点部材(30、33)から成り、該筒状接点部材が、前記ダミー弾包(2、20)から突き出て前記銃身ユニット(1、38)の対応する接点(44、45)と接觸接続することができること、を特徴とする携帯兵器を改装するための装置。

6. 請求の範囲第5項記載の装置において、前記対応する接点(44、45)との前記接觸時間の持続期間が、パルスが発生される期間を制御すること、を特徴とする携帯兵器を改装するための装置。

7. 請求の範囲第5項または第6項記載の装置において、前記対応する接点(44、45)は、第1と第2の接点部材から成り、該第1の接点部材は、導電性コア部材(44)から半径方向に外方に付勢された少なくとも1つの弹性接点素子(50)から成り、前記第2の接点部材は、導電性基部部材(46)から半径方向に内方に付勢された少なくとも1つの弹性接点素子(45)から成り、前記携帯兵器の発砲時に、前記の第1の素子(50)及び前記の第2の素子(45)が付勢されて前記同

特表昭63-502211(2)

帯兵器を改装するための装置。

8. 請求の範囲第7項記載の装置において、前記第1接点部材は、複数の細長い弾性接点素子(50)から成り、該弾性接点素子は前記コア部材(44)によって各端部で支持されて各素子の中間部分が前記コア部材(44)から半径方向に外方に離間されるようになっており、また前記第2弾性接点部材は、前記基部部材(46)から支持された複数の内方に湾曲した指部(45)から成ること、を特徴とする携帯兵器を改装するための装置。

9. 請求の範囲第4項から第8項のいずれかに記載の装置において、前記コンテンサ(6、23)それ自体が一端で前記スプリング偏倚された電気接点(11、30、33)を担持し、前記コンテンサ(6、23)が前記薬包ケーシング(5、21)内に移動可能に装着され、かつその他端に掣針が結合可能な部材(14、26)を担持していること、を特徴とする携帯兵器を改装するための装置。

10. 模擬射撃用に在來の携帯兵器を改装するための装置であって、前記携帯兵器の発砲時に銃の銃身から放射線の放射を提供するための電磁放射線の放射体(17、17'、41、91、113)と、該放射体(17、17'、41、91、113)のための電気エネルギー源(6、23、92、92')とを含む前記装置において、前記装置が、前記携帯兵器の薬包室内に受けられるよう適合したダミー薬包(93)と、及び前記銃身内に受けられるよう適合した銃身ユニット(103)と、を更に含み、該銃身ユニット(103)が、前記放射線放射体

(91)と、前記電気エネルギー源(92)と、及び前記エネルギー源(92')を前記放射体(91)に接続するためのスイッチ手段(102)と、を含み、前記ダミー薬包(93)が、前記銃の掣針からの発砲信号を前記スイッチ手段(102)に中継するのに適合されており、該スイッチ手段は前記薬包(93)からの前記信号により作動されるよう適合されていること、を特徴とする携帯兵器を改装するための装置。

11. 模擬射撃用に在來の携帯兵器を改装するための装置であって、銃の銃身から放射線の放射を提供するための電磁放射線の放射体(17')と、及び該放射体のための電気エネルギー源(6、23、92)と、を含む前記装置において、前記電気エネルギー源(6、23、92)がコンテンサ(6、23)から成り、前記放射体が前記携帯兵器の発砲時に作動されるレーザ・ダイオード(17')であること、を特徴とする携帯兵器を改装するための装置。

12. 請求の範囲第11項記載の装置において、前記レーザ・ダイオード(17')は、実質上平行な放射ビームを発生するよう光学手段により適合されていること、を特徴とする携帯兵器を改装するための装置。

13. 模擬射撃用に在來の携帯兵器を改装するためのアッセンブリであって、銃の銃身から放射線の放射を提供するための電磁放射線の放射体(113)と、及び該放射体のための電気エネルギー源(92')とを含む前記アッセンブリにおいて、該アッセンブリが、前記銃の前記銃身内に収容されるよう適合された自蔵薬包(10

9、109')であり、前記エネルギー源を構成する前記薬包のバッテリ部分(92')が軸方向に前記放射線放射体(113)とスイッチ部分(119)との間に配置されており、前記スイッチ部分(119)が前記銃の通常の発砲機構により作動されるよう適合されており、そして前記銃の発砲時に前記スイッチ部分(119)が作動されて放射線パルスが前記放射体(113)により発射されるように配置されていること、を特徴とする携帯兵器を改装するためのアッセンブリ。

14. 請求の範囲第13項記載のアッセンブリにおいて、前記スイッチ部分(119)が、前記銃の前記掣針により作動される圧電発生器から成ること、を特徴とする携帯兵器を改装するためのアッセンブリ。

15. 請求の範囲第13項または第14項記載のアッセンブリにおいて、前記薬包アッセンブリは、プラグ(112)及びソケット(111)接続によって互いに接続されるよう適合された2つのユニット(109、109')から成り、その1つのユニット(109)が前記バッテリ部分(92')と前記スイッチ部分(119)とから成ること、を特徴とする携帯兵器を改装するためのアッセンブリ。

16. 請求の範囲の先行する項のいずれかに記載のアッセンブリにおいて、前記放射体(17、17'、41、91、113)のための付勢回路(16、16')が、パルス発生器(16、16'、40、90、122)から成ること、を特徴とする携帯兵器を改装するためのアッセンブリ。

明細書

模擬射撃用の装置

技術分野

本発明は、特に模擬射撃用の装置に関し、そして即ちにではないが、在來の携帯兵器と共に使用して銃を改装するのに適合されて、これによってその銃の発砲時に、適当な様のセンサにより検出できる電磁放射線ビームを発するようにして、実弾を使わないが実際の銃で射撃練習ができるようにする装置に関するものである。この種の装置は、以下において、定義した種類の装置と呼ぶ。

実際の銃を使用する利点は、緊迫した状況で実弾での使用を求められることが稀にしかないような銃について、その使用を最小の費用でしかも危険なく練習することができるにある。

本発明の他の使用は、限られた区域内でガン・スポーツの練習を行うことである。

背景技術

定義した種類の装置は、英國特許明細書第1034026号及び第1595189号から知られている。

英國特許明細書第1034026号は、薬室に収容されたダミー薬包を記載しており、このダミー薬包は、その摺動可能な接觸部材が掣針で打たれるときスイッチとして作用し、そしてその室から外方に移動して放射エネルギー放射体から成る銃身付属具と接觸する。この初期の構成においては、電源は、火器の外側にあり、これは、火器の現実味のある模擬使用を損なうだけではなく、その

特表昭63-502211(3)

であれ、その銃に在来の方法で装填できるダミー薬包の中に有利に収容でき、従って銃の通常の使用を模擬するのに役立つ。用語“薬包”は、弾丸、砲弾等を含むよう意図している。

ダミー蒸包を発砲し終わった時、それは、携帯バッテリ・パック内の適当なソケットに挿入することにより急速に再充電することができる。

従つて、我々は、弾倉または薬室内に通常の方法で装填しそして発砲後に抜くことができる、レボルヴァー、オートマチック・ピストル、ライフル、ショットガン、又はその他の同様な携帯兵器のためのダミー薬包を提供する。同様に、薬包排出器を持つそれら携帯兵器においては、その排出された薬包は集めて再充電することができる。

放射線放射体とこれと関連の回路を全てダミー袋包内に組み込むことも可能であるが、我々は、銃の銃身内にはまるよう適合した銃身ユニットの中に、その放射体を配置するようにし、そして銃内の発火位置に配置したダミー袋包のコンデンサを放射線放射体を付勢するためその銃身ユニットへ電気的に接続するための手段を設けている。

好ましくは、ダミー蒸包の頭部は、スプリングで偏倚させたピンの如き電気接点を収納しており、この電気接点は、銃身ユニットの後端上又はその後端内の適当な電気接点と電気接続するよう突出することができ、そして好ましくは、そのスプリング偏倚接点は銃の撃針の動作により突き出すように配置されている。

スカを含み、このエミッタ電圧を決定する別のコンデンサは、少なくともその電源コンデンサが弛張発振器に接続されてパルス化を開始させる時、そのトランジスタのエミッタ電極と電源コンデンサからの供給ラインの1つとの間に接続され、そして弛張発振器からの出力は、好みしくは、通常のやり方（出力をユニジャックション・トランジスタの第1ベースB1電極から取る）と比べ、第2ベースB2電極から取る。

この発振器回路からの出力は、肝ましくは、放射線放射体を駆動するため、並列配置の1対の小トランジスタに接続されており、この放射体は、赤外線発光ダイオード、またはレーザ・ダイオードでよい。

本発明の第2の面は、携帯兵器の撃針により作動されるダミー薬包と、携帯兵器の銃身内にはまるように適合されかつ銃身から放射線を発射するための電源及び放射線放射体を組み込んだ銃身ユニットと、の間で発砲信号を伝達するための構成に関するもの。

本発明のこの第2の面によれば、携帯兵器の“発砲”時に電磁放射線ビームを発生するため携帯兵器内への収容に適合された装置は、携帯兵器の薬包室内に受けられるよう適合されたダミー薬包と、及び銃身内に受けられるよう適合された銃身ユニットと、から成り、この銃身ユニットは、放射線放射体と、電気エネルギー源と、及びそのエネルギー源を放射線放射体に接続するためのスイッチ手段と、から成り、ダミー薬包は、発砲信号を銃の駆動からその電子回路装置へ導く回路構成を有する。

る。英国特許第1595189号は、在來のピストルを記載してあり、このピストルは、放射エネルギー放射体及びスイッチ。ユニットを銃身に挿入しそして電源をピストル弾倉内に設けることにより、模擬射撃に適合させている。この構成においては、弾倉に電気導体を設けなければならないだけでなく、薬包を薬室に装填する現実感が失われてしまう。従って、これまで、携帯兵器への変更を必要とせざる興味のある模擬射撃のため携帯兵器に容易に適合できるほど小形の放射線放射体用の電源を提供するに際し、問題があつたことが明らかである。

発明の開示

本発明の1面によれば、我々は、携帯兵器内への収容に適合した装置を提供し、この装置は、銃の銃身から放射線を発射するように適合された電磁放射線の放射体と、コンデンサから成る放射体用の電源と、から成り、放射体が携帯兵器の発砲時に作動されるようになっている。

従つて、上述の従来技術の場合のように銃の外部にまたは台じり若しくは弾倉内に設けるバッテリの代わりに、適当なコンデンサを銃内に収容し、そしてこのコンデンサは、奸ましくは銃に挿入される前に、しかもも適当な携帯可能な再充電可能バッテリ・パックから都合よく充電することができる。

低損失の電解コンデンサは、数時間に渡ってそれほど
の損失もなく電荷を保持することが判っており、従って
この目的に適しているが、その他の適当なタイプのコン
デンサも利用することはできる。このコンデンサは、銛
がピストルであれ、ライフルであれ、またショットガン

表現「撃針」は、どのようなタイプの可動のボルト、ストライカ、ハンマ等のダミー薬包を作動することができるものも包含するよう意図している。

1つの軽ましい構成においては、このダミー薬包は、筒状の同軸の接点を含み、この接点は、“発火”時に薬包の頭部内のボアを通して近づいて銃身ユニットの対応する接点と摺動接触する。これら薬包接点は、圧縮スプリングによって薬包ケーシング内のその通常の後方位置に保持されており、そして放射体スイッチの“マーク及びブレーキ”時間が選択したスプリングのレートにより調節できる。

コンデンサは、袋包ケーシング内に固定配置してもよいが、好ましくは、袋包ケーシング内に可動に装着され、そのコンデンサの一端が正かまたは負の接点若しくは正と負の両方の接点（これらは同軸にまたは並んで装着される）を担持し、そしてその他端は繋針係合可能部材と協動する。

放射線放射体及び関係の付勢回路を裏包自体ではなく
統身ユニット内に配置する利点は、これら部品が裏包が
こうむる機械的操作を受けることがなく、またその結果
それら部品の損傷の機会が少なくなるといふことである。

バルス化放射線放射体は、標的のセンサが鏡が発する放射線と周囲放射線とを識別できるようにするために望ましい。

充電されたコンデンサが給電する弛張発振器は、好み

特表昭63-502211 (4)

作動されるよう適合されている。

銃身ユニット内の電源は、この場合、通常は再充電可能なバッテリであり、従って、本発明のこの面は、特別なバッテリが手持ち銃に必要となるため、大きな携帯兵器により一層適用可能である。

発砲信号をダミー薬包によりスイッチ手段に中継するために、種々の配置が利用できる。1つの好ましい配置においては、ダミー薬包は、圧電水晶を含んでおり、この水晶は、薬包の後端が撃針により打撃された時に高電圧の電気パルスを発生するように配置されている。

この電気パルスは、好ましくは、次にダミー薬包の前面と銃身ユニットの後面との間に容量性接続によりスイッチ手段に与えられ、この容量性接続は、ダミー薬包の前面と銃身ユニットの後面との間にクリアランス空間を許容し、これはレボルバー又はオートマチック・ピストルにおいては特に望ましい。

この容量性接続は、銃身ユニットの後端の板が薬包の前面の同様な板または針と向かい合って成ることができる。

代替的には、圧電水晶が、ダミー薬包内の別の放射線放射デバイスを給電するようにし、適当な放射線検出器を銃身ユニット内に設けて銃身ユニットの後端に往々放射線を検出し、そしてこの検出器をスイッチ手段を作動するように配置することができる。

圧電水晶は比較的丈夫であるため、そのようなダミー薬包を、繰り返し行われる装填及び抜き出し／排出に耐えるようにすることができる。

放射線放射部とスイッチ部との間に軸方向に配置されたバッテリ部を備え、このスイッチ部は、銃の通常の発砲機構により作動されるように適合されており、そしてその配置は、銃の発砲時にスイッチ部が作動されて放射パルスを放射線部から発するようになっており、そのバッテリ部はその放射線放射部用の電源をえる。

スイッチ部は、撃針により作動される圧電水晶から成ることができ、そして好ましくはバッテリ部及び電子部と單一のユニットとして組み合わせられ、そしてこのアッセンブリは、その第1のユニットと電気的に接続可能な放射線放射体を含む第2のユニットで完成する。

バッテリ部は、プラスチック・スリーブの如きホルダ内に配置したNi-Cdバッテリ・スタックから都合よく構成できる。

このバッテリ部は、好ましくはヒューズを含んでいる。薬包アッセンブリのそれら2つのユニットは、好ましくは、プラグーソケット接続により互いに接続されて、バッテリ部が再充電できるようにし、また1部を故障時に素早く交換できるようにする。

これらNi-Cdバッテリは直列に接続される時高い放電電流を与えることができるため、プラグーソケット接続は使用の直前にのみ行われることが好ましい。

次に、本発明について、添付の図面を参照しながら例としてのみ更に記述する。

図面の説明

好ましい放射線源は赤外発光ダイオードであるが、このような放射体は、発散する放射線ビームを発生し、このビームは、銃の口径及び標的のレンジに対して、標的一面での横断面積(円形面積)が大きすぎるものである。その結果として、光学手段を設け、これを放射体の端部において把持されるようにするかまたは銃身ユニット内に配置されるようにし、これによって発散を減少させ、銃の口径及び標的のスケールダウンしたレンジに釣り合うようにその円形面積を調節することができる。このような光学手段は、レンズまたはレンズの組み合わせと及び反射面とから成ることができる。しかし、ショットガン(これは実際には一般的により長い距離のところの固定のまたはゆっくり動く標的をねらう)以外の携帯兵器を使用する時、赤外光ビームをほとんど平行にすることが望ましい。

本発明の第3の面によれば、我々は、携帯兵器内に収容するのに適合した装置を提供し、このアッセンブリは、銃身から放射線放射を発生するよう適合された電磁放射線の放射体と、及びコンデンサから成る放射体用の電気エネルギー源と、から成り、これにおいて、放射体はレーザ・ダイオードである。

好ましくは、レーザ・ダイオードは、実質上平行なパルス化放射ビームを発生するよう適合されている。

本発明の第4の面は、排他的にではないが、特にショットガンに適用可能である。

我々の発明のこの第4の面によれば、在来の銃の銃身内に収容されるよう適合された自滅薬包アッセンブリは、

ユニットの概略的な長手方向の断面図。

第2図は、第1図の薬包の変形である、ダミー薬包の長手方向の横断面図。

第3図は、放射線放射体と、第2図の薬包と協働するためのスイッチ要素とを含む銃身ユニットの長手方向の横断面図。

第4図は、第1図及び第3図の実施例の銃身ユニットのパルス回路の回路図。

第5図は、レーザ・ダイオードと使用するための変更したパルス回路の回路図。

第6a図は、第4図の回路内の発光ダイオード電流の軌跡である。

第6b図は、第5図の回路内のレーザ・ダイオード電流の軌跡である。

第7図は、本発明の他の実施例に関係したダミー薬包の概略的な長手方向の横断面図。

第8図は、放射線放射体と、第7図の薬包と協働するためのスイッチ要素とを含む銃身ユニットの概略的な長手方向の横断面図。

第9図は、本発明の他の実施例に関係したショットガン用のダミー薬包を示す概略的な図。

第10図は、発光ダイオードからの放射を集中させるためのマスクの1形態を示す詳細図。

本発明を実施するための最良の形態

第1図を参照すると、これは、銃の発砲機構の作動時

特表昭63-502211(5)

ト1、少なくとも1つのダミー薬包2から成り、この銃身ユニット1は、銃身ユニット内にはまるような寸法にされており、そしてこれにはユニット1を保持するため適当な位置決め手段(図示せず)が設けられており、それによって、薬包が銃身と軸方向に整列した銃の薬包室内の位置にある時に、薬包2の前端から密接して離間するようにされている。銃はレボルバーまたはオートマナック・ピストルが可能であり、これら両方の場合に銃の多數回発砲を模擬するためには、ダミー薬包2をいくつも持っていることが必要となる。

このダミー薬包2はケーシング5を含み、このケーシング内に案内部(図示せず)によって軸方向に摺動可能に装着されているのは、低潤滑電解コンデンサ6であり、これは、その両端に摺動する接続部または可とう性のワイヤの如き適当な電気接続部7、8を持ちしかも外部接点9、10をケーシング5上に持つようでき、それによってダミー薬包2が銃に装填される前にコンデンサ6を充電できるようとする。代替的には、このコンデンサの前端への充電接続は、コンデンサのその前端に担持された接触ピン11によって作ることができる。この軸方向の接触ピン11のその前端12は、そのコンデンサが適当な圧縮スプリング13により偏倚させられたその通常の後方位置にある時に、前端4の先端から数千分の1インチ内に位置決めされている。コンデンサの後端は、適当なプランジャー14を担持しており、これには、銃の撃針が銃の発砲機構の作動時にコンデンサ6と接触ピン11を前方に進ませるために係合可能である。

0.32." 薬包の場合のコンデンサ6は、2つの22 μ F 25Vコンデンサで可能であり、これらは直列に電気接続され物理的には縦一列に配置されており、そしてこの組み合わせのコンデンサは銃に装填される前に40ボルトに充電される。それら2つの22 μ Fコンデンサの総合容量は11 μ Fであり、1個の10 μ Fコンデンサではなくこの組み合わせのコンデンサをこの口径が使用する利点は、22 μ Fコンデンサが10 μ Fコンデンサよりも小さな径で得られるからである。

より大きな薬包に対しては、例えば1個の100 μ F 40Vコンデンサを充電させることができる。

40ボルトもの高い電圧を使用する主な利益は、コンデンサの蓄積エネルギーが、これがある容量に対する電圧の二乗に比例すること念頭にいなければ、比較的大きいことである。容量及び充電電圧の選定は、実際の射撃の必要条件をより厳密に模擬するために、どれだけ多くの赤外線パルスを発生することが必要であるか、また一回の発砲後ユーザにコンデンサを充電させるようにするかどうかに依存する。

ピストル又はレボルバー用に主として意図したダミー薬包及び銃身ユニットの変形版について、第2図及び第3図に夫々示してあり、これは第1図に示したものと概して似ているが、スイッチ要素が銃の“発砲”時に摺動運動を行う点で相違している。この配置は、スイッチ要素間のより積極的な接触を提供するだけでなく、これとは直接関連しない、主な目的たがためにセッティング

このコンデンサの-ve端を金属のダミー薬包ケース5に接続し、+ve端を適当な絶縁材料から作った薬包の頭部4を貫通して移動する接触ピン11に接続することが好ましいであろう。

薬包用の充電ユニット(図示せず)は、必要に応じて多くのソケットを有し、各ソケットは、薬包の外側ケース5に接続する接点と、そして薬包がソケットに挿入される時薬包の中心ピンと接触するためそのソケットの底に置かれるスプリング接点と、を有している。小さなLEDが各ソケットの中心ピンと直列に接続され、このLEDは、薬包が挿入されると点灯し、そしてコンデンサが銃への装填前に完全に充電されると消灯する。

銃身ユニット1の後端3は、突き出た接触ピン11が係合するための接触板15を担持しており、これは付勢回路16即ち第4図の回路に電気的に接続され、この回路は、接触板15が接触ピン11及び板15を介してコンデンサ6に電気接続される時、赤外ダイオード17の反復的パルス化を発生するように配置されている。

銃身ユニット1はその前端において、ダイオード17が発する赤外線の広がりを制御するため適当なレンズ・アッセンブリ18を収容するようできる。これは更に、放射線が出るそのダイオードの前面の1.5mm径の領域を除いてスパッタでアルミニウム反射層をダイオードにコーティングすることにより制御される。あるいはその代わりの方法として、別個の金属マスクを使用でき、これについては第10図と関連して以下に詳細に記述する。

放射体が発する放射線パルスの数を決定するのに有利に使用できる。

第2図が示しているダミー薬包20は、外側ケース21を含み、このケースの形状及び物理的寸法は、特定の携帯兵器(この例では、0.357" Magnum(商標)ピストル)用の適当な実際の薬包の寸法とはほぼ同じである。外側ケース21は、内側ケース22を含み、この内側ケースは、外側ケース内に滑動し易くはまっていてその外側ケースの約半分の長さを持つ円筒状ハウジングから成っている。これら内側ケース及び外側ケース21、22は、両方とも黄銅から作られているが、これらケーシングは導電体であることが不可欠のものではないのでその他の任意の適当な材料から作ることができる。

外側ケース21の基部は、中心に位置決めされた貫通ボア25を有し、これは、内側ケース22の基部から延びた円筒状頭部26を受け、ピストルの撃針用の“衝撃キャップ”またはストライカ・パッドとして働く。外側ケーシングの前端は、除去可能なプラスチック頭部コーン27を位置決めするため僅かに先細りにされている。内側ケース22は、通常20ボルトで動作する放射体用の電源として、低潤滑電解型のラジアル・リードのコンデンサ23を含んでいる。このコンデンサは、10 μ F 6.3Vが適当である。中央の細いロッド電極28は、コンデンサ23から前方に斜接のペジト・ワイヤ電極29と平行に延び、これら電極は、夫々コンデンサからの正

特表昭63-502211(6)

軸の大部分に渡って延びた同軸の盲ボアを有している。後方ボア32より径が大きい前方端ボア31は、まだ記述していないが、動作時に銃身ユニットの正接続を受け、そしてその後方端ボア32は、細いロッド電極28を受ける。プローブ接点30は、この内側接点30上に滑動できるようにはまつた外側筒状プローブ接点33を抱持している。これは、まだ説明していない理由でその内側接点より僅か短く、そして頭部がカップ状の部分34を有しており、この部分34は、内側ケース22の前端内へ押し込まれてはまり、そこでその内側ケースの口に隣接した円筒状フランジと接触する。内側接点30は、その内側端に円筒状フランジ部分35を有していて、これは外側接点33のカップ状頭部部分34内に受けられている。これら2つの接点30、33は、ナイロン・スリーブ24によって互いに電気絶縁されており、このナイロン・スリーブ24はフランジ端部分を含む内側接点30の全長に渡ってきつくはまって延びている。外側接点33の頭部部分34内の軸方向に延びたスロットは、負電極29用の通路及び接觸点を与える。上記のように、外側電極33の頭部部分34は、内側ケース22の端部内に押し込まれてはまっており、従ってコンデンサ23と内側及び外側の接点30、33は、内側ケース23内に堅くしあし取り外しができるように保持されている。外側接点33の前方環状面と頭部コーン27の後面との間には環状空間があり、これは、内側ケース22がコンデンサ23と共に軸方向に前方に移動して、内側及び外側の接点30、33を運ぶことができるようになる。頭

部コーン27は、軸方向に貫通したボアを持ち、これは後面から端ぐりされて歎らかい伸張スプリング36用の環状支えを提供し、このスプリング36は、この環状支えと外側接点33の環状前面との間に延びている。コンデンサのハウジング及びこの接点アッセンブリは、このように、スプリング36によって、外側ケース21の基部の対し頭部26がボア25を占める状態で通常保持される。接点アッセンブリの前端は、頭部コーン27のボアを貫通して延びており、そしてその配置は、内側及び外側の接点30、33の両方の自由端がその頭部コーン27の口のちょうど内側に通常位置決めされ、しかもその内側接点30がその外側接点33より前に来るようになっている。この配置は、異物によるそれら接点の“横渡し”を防止するように設計されている。スプリング36は、このコンデンサ/接点アッセンブリが、薬包室または弾倉内に挿入されている間その後方位置に保持されるのを確保し、そしてスプリングのレートが、ピストルの発砲時に銃身ユニットのスイッチ部分との最適な接觸時間を与えるように格別に選定される。ピストルが発砲されると、撃針が頭部26を打撃し、そしてコンデンサの電極アッセンブリがスプリング36の力に逆らって前方に急速に進められ、それによって、それら接点が瞬間に頭部コーン27から短い距離だけ突き出て銃身ユニットの対応したスイッチ部材と接觸するようになる。スプリング36は、コンデンサ/電極アッセンブリをその後方位置に戻す前に実質上完全に圧縮されることになる。

僅かに変更した形態においては、製造上の便宜のため、

プラスチック絶縁体24は、2つの部品、即ち筒状スリーブと、コンデンサの前端と境を接する構付きワッシャと、から成ることができる。しかし、重要なことは、そのスリーブが起こりうる湿気の侵入を防ぐため中心電極上に圧力ばめされることである。

第3図を参照すると、今述べたダミー薬包20を包含する薬包室37とピストル銃身との輪郭をゴーストラインで示している。銃身ユニット38は、スイッチ部39と、電子部40（この代替回路は後述する）と、及びI R - L E D 放射体41と、から成っている。判るように、ダミー薬包20の模擬“発砲”を達成するためには、薬包室37及び銃身ユニット38は本質上軸方向に整列しており、そして携帯兵器のたいていの設計においては、遊底またはレボルバーの場合のシリンダと、ダミー薬包の接点30及び33により“横渡し”されねばならない銃身の端部と、の間には小さなギャップがなければならぬ。

銃身ユニットのスイッチ部39は、開放終端の円筒状ハウジング42を含み、これは、ピストル銃身のボア内に滑動ばめされており、そして径が小さくなつて前方に延びたねじ切りされた首部43はこのハウジング42を電子部40に結合する。ハウジング42は、番号44及び45で夫々参照された正及び負の接点を備えている。この負接点を構成する1対のスプリング素子は、環状スプリング・ホルダ46の基部から2回湾曲して延びており、このホルダ46は、電子部40との端子接続（図示

段ワッシャ47によって正接点44から電気絶縁され、この正接点ホルダ48はまたハウジング42から絶縁されている。この正接点44は、細長いピンとして形成され、きのこ形頭部49と、この頭部49と中間の肩持ち部51との間に延びた複数の湾曲スプリング接点50とを有し、その肩持ち部51は、絶縁ワッシャ47の後面と境を接することによりホルダ48内にその接点を位置決めする。正接点44の尾部52は、前方即ち銃口に向かって延びて電子部40と接觸するが、その尾部の首部43内にある部分は堅くはまつたプラスチック・スリーブ53によってそれから絶縁されている。それら正接点及び負接点は、ハウジング42の後端に位置した止メ輪54によりそのハウジング内に保持されている。ハウジング42のねじ切りされた首部43の回りには、分割された膨張可のプラスチック・ワッシャ55が設けられており、これは、銃身ユニット38の先細の端部56を受けるような寸法の前方に延びたフランジ部分を有している。銃身ユニットのねじ切りされた内側ボアは、首部43の外側ねじ切り端部とかみ合い、そして判るように、銃身ユニット38の前端のひだ付き頭部57をねじ込むことにより、ワッシャ55を膨張するようにでき、そしてそのユニットがピストルの銃身に挿入されると、その膨張は、膨張したワッシャが銃身の側面を圧迫するので、銃身ユニット38をピストルの銃身内に解除可能にロックするよう作用することになる。その代わりとしては、適当な“O”リングを使用することができる。

特表昭63-502211(7)

ラグーソケット・タイプ接続 5 8 によって取り外し可能に接合されており、かつ銃身ユニットのハウジングの内側肩部 5 9 に押し付けたアッセンブリとして配置されており、この銃身ユニット・ハウジングは導電性金属のものであって電子部の負接点を形成している。レンズ 6 0 は、LED 4 1 の前面に設けるようにすることができる。

この銃身ユニットは、特定の携帯兵器、この場合はピストルに使用するための寸法にしてあり、そしてこれは、薬包室内の充電したダミー薬包 2 0 と共に上記のようにその銃身に配置されると、使用の準備ができる。ピストルの引金を引くと、弾丸の同軸の正接点 3 0 及び負接点 3 3 が、擊針によって1つのユニットとして薬包室と銃身ユニットとの間の小ギャップを横切るよう進められ、そして内側の正接点 3 0 は、頭部 4 9 上に滑動し湾曲スプリング 5 0 とこれ接触することになる。同様に、外側負接点 3 3 は、湾曲スプリング 4 5 の内側面を押しながら滑動し、それによってピストルから一発の赤外線発射のために薬包 2 0 と銃身ユニット 3 8 との間のコンデンサ回路を完成する。

付勢回路（どちらか一方を選択できる）について、次に第4図及び第5図を参照して記述する。

第4図の回路（これは、第1図、第2図及び第3図を参照して記述した実施例に適用できる）においては、コンデンサ 6、2 3 は、接触ビン 1 1、3 0、3 3 が撃針によって突き出されて板 1 5（第1図）または接点 4 4、4 5（第3図）と接触する時、+ve 端子と -ve 端子との間に接続される。

路の直列抵抗に依存することである。

この回路には2つの10オーム抵抗器 7 8、7 9 が示されている、2つの並列トランジスタ 7 6、7 7 の各エミッタ・リードの1つは出力回路においては5オームに等価であり、また公称 1.0 ~ 1.5 オームの抵抗器 RX が IR-LED のカソード・リードに示されている。この RX は、コンデンサが提供する入力電圧が40ボルトの時、1.250mA のピーク・パルス電流を IR-LED 1 7 に供給するよう都合よく調節される。図示のこの回路が持つ特性は次の通りである。即ち、IR-LED パルス電流は、そのコンデンサ電圧が2.5ボルトに低下すると、およそ 1.000mA に下がり、そしてそのコンデンサ電圧が2.0ボルトに低下すると、およそ 8.000mA に下がり、その電圧は指数的に低下する。コンデンサは初期には4.0ボルトに充電される。IR-LED へ印加される諸パルスの振幅が急速に低下するので、そのパルス発生の全体の持続期間を制御するためのタイミング装置を設ける必要はない。

IR-LED 1 7、4 1 の指定の最大電流値は、1.0 マイクロ秒のパルス持続時間に対しては 2.0 アンペアである。

LED 1 7 に与えられる電流パルスの形は、第6a図に示してある。

希望であれば、第4図の回路は、2つのトランジスタ 7 6、7 7 ではなく、1つのトランジスタ ZTX 504 のみを使用して簡単化することができる。その時、以下

発振器回路 7 0 は、本質的には弛張発振器回路であり、これはユニジャンクジョン・トランジスタ 7 1、T 1 S 4 3（製造者は不明であるが RS と付されており、ゼネラル・エレクトリック・オブ・アメリカの GE 2N2 646 と等価である）を使用しているが、その出力リード 7 2 は、通常のユニジャンクジョン・トランジスタ 7 1 の B 1 ベース電極からではなく、その B 2 ベース電極から取っている。この発振器の電源は、第2ツェーナーダイオード 7 3 により 1.2V に制御されている。

トランジスタ 7 1 のエミッタ E 電圧は、0.01μF コンデンサ 7 4 により制御され、このコンデンサ 7 4 の充電及び放電は、そのトランジスタのスイッチングを引き起こし、トランジスタはライン 7 2 に出力パルスを発生することになる。

ライン 7 2 の発振器 7 0 からのこの出力は、結合コンデンサ 7 5 を通して並列配置の1対のトランジスタ ZTX 504 (Ferranti) 7 6、7 7 へ運ばれる。これらトランジスタ 7 6、7 7 からの出力パルスは、抵抗器 RX 及び実効上並列の抵抗器 7 8、7 9 を介して赤外発光ダイオード 1 7、4 1 に給電する。

IR-LED 1 7、4 1 (第1図及び第3図) は、テレフンケンの TSHA 6503 であるが、T 1 L 3 8 も使用できる。

40ボルトもの高いコンデンサ電圧を使用する利益は、IR-LED 1 7、4 1 に供給されるパルスの持続時間が発振器 7 0 から供給されるパルスの幅に依存するため、IR-LED パルスのピーク振幅が主としてその出力回

抵抗器 8 1 10 KΩ

コンデンサ 7 4 0.022μF (K1151)

コンデンサ 7 5 0.047μF (YY101)

抵抗器 8 2 220Ω

第5図は、レーザ・ダイオードと使用するための、第4図の回路の変更例 1 6' を示している。第4図のものと対応する回路素子には、対応した参照番号を付してある。

使用したレーザ・ダイオード 1 7' はシャープレ T O 22MS である。重要なことは、そのようなレーザ・ダイオードに印加されるパルスに高電流スパイクが無いことであり、この目的のため、パルス整形段 8 3 がトランジスタ 7 6 の出力とレーザ・ダイオード 1 7' との間に設けられ、このパルス整形段は最大レーザ・ダイオード電流を 6.7mA に制限する。第6b図に示すように、このレーザ・ダイオード 1 7' に印加される電流パルスは、矩形のものである。この回路配置では、パルスの 6.7mA の高さが、供給コンデンサの電圧が4.0ボルトから1.7ボルトまで低下しても維持され、そして約 1.5V より低い電圧に対してのみそのパルス電流及びパルス長が相当減少する。

以上の記述から判るように、定義した種類の携帯兵器用のダミー薬包または銃身ユニットに使用するため小型化したコンデンサ電源を導入することにより、現実味のある射撃模擬ができるようになり、これは、再装填なしでは限られた回数の発砲しか行えないようなピストルやレ

特表昭63-502211(8)

しかし、一度完全に充電されると、袋包は少なくとも1時間その蓄積エネルギー・レベルを満足な値に維持する。その後、袋包用の小型の携帯充電ユニットを使用することができる。

第7図及び第8図は、夫々本発明の他の実施例による袋包ユニットと銃身ユニットとを示しており、これは第1図のものと違った方法で働く。この配置においては、赤外発光ダイオード91に接続されたパルス回路90は、再充電可能バッテリ・ユニット92で給電され、このバッテリ・ユニットは、小さな口径の銃の場合には恐らくカスタムメードのユニットである必要があろう。各袋包ユニット93は、黄銅ケース94から成り、この中には、使用の際に銃の撃針が保合可能な衝撃ピン95により作動される圧電パルス発生器が装着されている。ピン95は、ボリアミド・ブロック96内に滑動できるように装着され、そして圧縮スプリング98によって圧電水晶ユニット97の後面に対しスプリングで偏倚させられていて、ストライカが衝撃ピン95と接触する時に跳ね返りが起こらないよう確保し、それによってきれいな単一パルスが圧電水晶により発生されるよう保証する。圧電ユニット97の前端は、アースされた黄銅の支え板99と境を接する。

振幅が100～200ボルトの桁のパルスが、銃の発砲機構の作動時にユニット97によって発生され、そしてこれが絶縁リード100によりエミッタ板101に供給され、このエミッタ板101は使用時に銃身ユニット103の後端で担当された対応する受け板102と密接

いる。その第1部分のセクション“B”は電源を含み、この電源は、Ni-Cd再充電可能バッテリ・セル92'のスタックから成り、これは圧電ユニット“A”とパルス発生器122を含む電子ユニット“C”との間に配置されている。セクション“C”は4ピン・ソケット111で終端し、このソケット111は、使用時にこのユニットの第2部分109'内のセクション“D”的端部の4ピン・プラグ112と接続する。セクション“D”は、赤外発光ダイオード(LED)113を収容し、このLEDは小さな開口を持つ不透明円板(図示せず)の背後に位置決めされている。このIR放射線ビームは、この開口から凸レンズ118を通して、この凸レンズはそのビームを選定したレンジに要求される通りに集中させる。その電子構成は、セクション“D”セクション“C”に差し込まれる時にのみこのユニットが活性化されるようになっており、そしてそれが含む電子導体114は、圧電ユニット“A”をパルス発生器122上の接続115とリンクしている。別の導体116、117は、夫々バッテリ・スタック92'の負端子及び正端子をそのパルス発生器に接続している。

撃針が圧電ユニット“A”を活性化すると、その結果の電気パルスは、セクション“C”内のパルス発生器の走行を制御する単安定回路をトリガする。その結果生ずるパルス列の持続期間は、この単安定回路を所望の時間に調節することによりプリセットできる。この単安定回路からのその結果の方波出力パルスは、非安定パルス

して対面する。それら板101及び102の近接から生ずるそれら板の間の容量性リンクは、高入力インピーダンス及び低出力インピーダンスの電子ユニット104にそのパルスを送り、この電子ユニットは、パルス回路90のオン/オフ・スイッチングを制御するよう配置されている。エミッタ板101は、板102から隔離されたピンと置き換えることができ、これは、電界効果によって受け板102と依然として活動するであろう。

第8図から判るように、銃身ユニット103は、銃身105内に配置され、その後端が銃身の隣接した後端面106と同一平面となるようにされている。

エミッタ板101及び受け板102を保護するために、これらは絶縁材料の薄い層107、107'でコートされ、そしてアクリルであるレンズ18'は薄い光学ガラス板108によって保護されている。

第9図は、本発明の他の実施例によるダミー袋包の配置を示している。この実施例においては、袋包は、ショットガンで使用するのに特に適合されており、これを構成する2つの部分109、109'は、標準のショットガン袋包の外径と同一の外径を持っている。その第1部分109の一端のセクション“A”は圧電ユニット119を収容しており、このユニットは、銃の撃針がそのユニットの端部を打撃するとき高電圧のパルスを発生する。この衝撃機構は、ショットガンのハンマが袋包を発火させる時のエネルギーと同じような量のエネルギーを吸収するように設計されており、これによって撃針機構に過度な応力を加えてそれを損傷するのを防止するようにして

パルス列を発生するよう設計されていて、その各パルスは、持続期間10マイクロ秒で、“オフ”期間が990マイクロ秒であり、従って1.0ミリ秒のパルス期間である。このパルス列は小電力増幅器に供給され、そしてこの増幅器は、10マイクロ秒、1200mAのピーク電流パルス列を発生し、これはIR-LED113に供給され、そしてレンズ118を通して標的へと達する。これらパルス発生器及び増幅器は、第4図のものと類似のものが可能である。

ショットガンの場合、銃身内には、本発明が必要とする電子装置全部を1つのユニットとして収容するのに十分な空間がある。判るように、スペースが許す任意の携帯兵器、例えばライフルにおいて、電子装置が全て銃身内に収容でき、そしてダミー袋包は、コンデンサであれ圧電デバイスであれ、銃身ユニット内のスイッチを活性化する活性化部材として単に働く滑動可能なピンを収容することができる。この種の変更は、本発明の範囲に入るるものである。

第10図は、発光ダイオードのガラス・エミッタ・バルブ17、91、113用のマスク120の使用を示しており、これは上述の諸実施例のいずれにおいても使用できる。このマスクの製造は、磨いた金属例えはアルミニウムのシートを鉛の如き柔らかい材料の平らな台の上に置き、そしてLEDバルブのと等しい湾曲を有した球または球終端パンチにより半球状の圧こんをプレスすることにより行える。この半球状のわんの中心には、次に

0は、放出強度に20%程度の増加をもたらすことが判っている。

この代わりとして、マスクは、プラスチックを鋳造し、そしてアルミニウムの如き反射物質（これは後で磨かれる）をスパッタすることにより作ることができる。適当なサイズの穴が、光放出のためその鋳型の中心に設けられる。

別の可能性は、LEDの外側表面に直接アルミニウムをスパッタすることである。ピンホールは次に、その反射性膜の小領域を取り除くことにより作られる。

第5図と関連して前述したレーザ・ダイオード配置の場合には、非常に小さな開口を使用し、その目標は、何等かの光学補正手段が必要となるが、出来る限り平行なビームを発生することである。

本発明の装置はまた、射撃の練習あるいは射撃ゲーム遊びの目的のために、複製銃または玩具銃で使用できることが理解されるであろう。

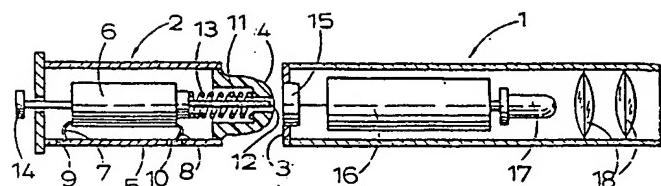


FIG.1.

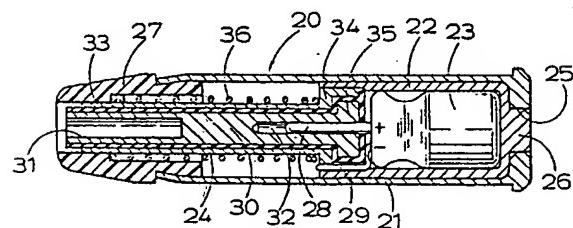


FIG.2.

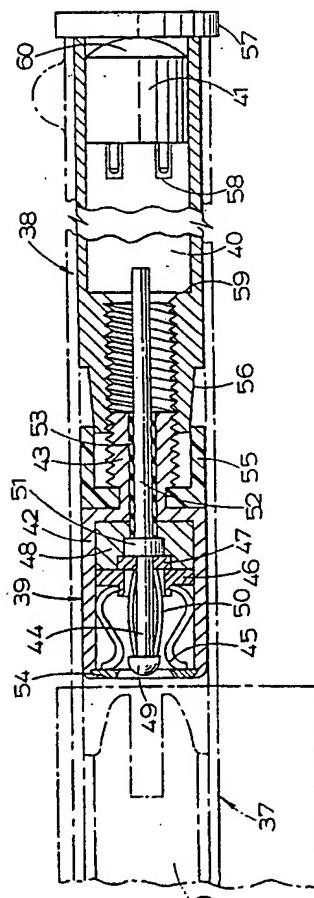


FIG.3.

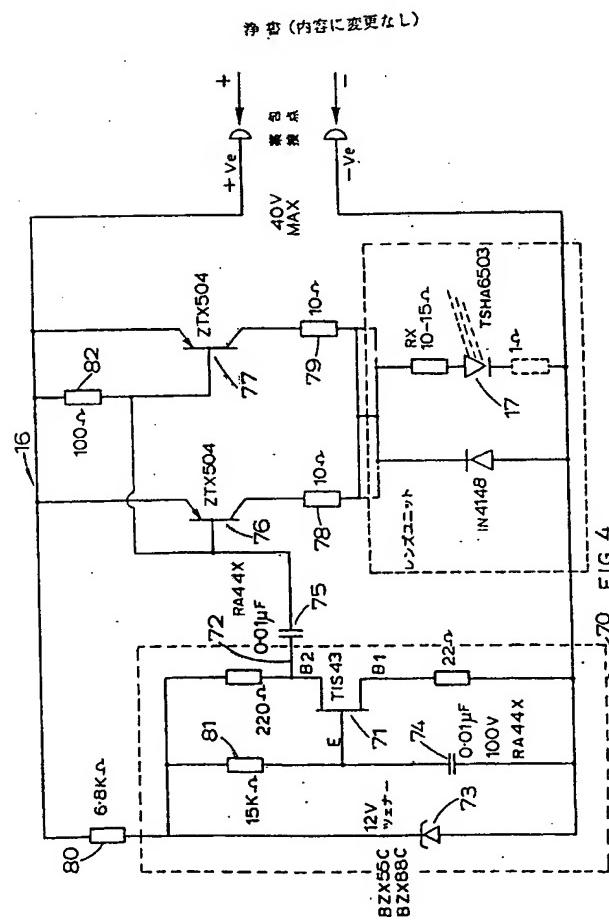
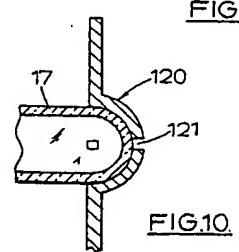
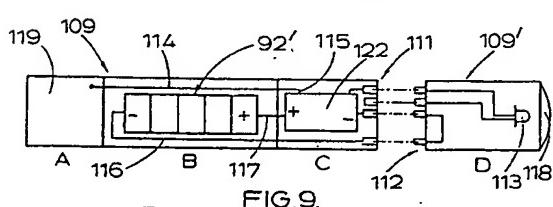
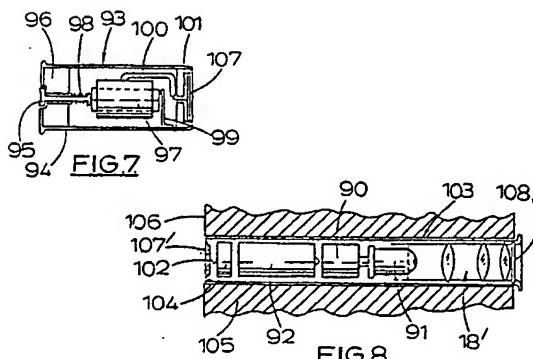
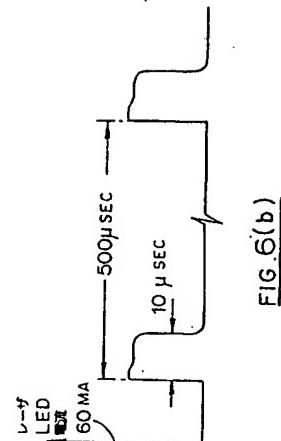
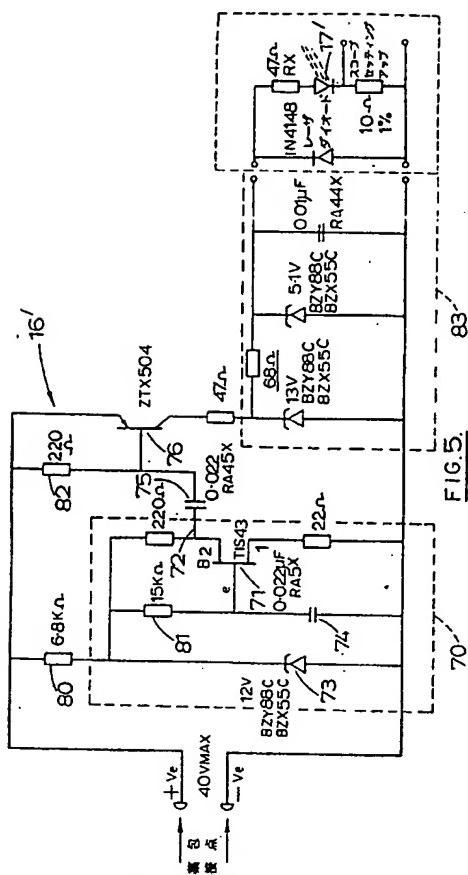


FIG.4.

争奪(内容に変更なし)

争奪(内容に変更なし)



手続補正書

特許庁長官 小川邦夫殿

昭和62年10月20日

1. 事件の表示

62-500814

PCT/GB87/00011

2. 発明の名称

模擬射撃用の装置

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所

名称 アクレス・アンド・シェルヴォーク・リミテッド

4. 代理人

住所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号

新大手町ビル 206号室

電話 270-6641~6

氏名 (2770) 弁理士 湯浅恭

5. 補正の対象

図面の翻訳文

6. 補正の内容

別紙の通り(尚、図面の翻訳文の内容には変更なし)

特許庁
62.10.21
出願

特表昭63-502211(11)

国際調査報告		
International Application No. PCT/GB 87/00011		
I. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER (in general classification symbols only; indicate all) According to International Patent Classification (IPC) or to both National Classification and IPC		
IPC ⁴ : F 41 C 27/00		
II. FIELDS SEARCHED		
Minimum Documentation Searched ⁵		
Classification System Classification Symbols		
IPC ⁴	F 41 C; F 42 B	
Documentation Searched other than Minimum Documentation to the Extent that such Documents are Included in the Fields Searched ⁶		
III. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT ⁷		
Category ⁸	Character of Document, ⁹ with indication, where appropriate, of the relevant passages ¹⁰	Reference to Claim No. ¹¹
X	US, A, 4367516 (JACOB) 4 January 1983 see column 2, line 60 - column 3, line 43; figures 2,12; column 5, lines 21-38	1,4,6,11,12
X	US, A, 3526972 (SUMPF) 8 September 1970 see column 3, lines 4-45; figures 2,8	1
Y	--	2,4,10
Y	US, A, 4481561 (LANNING) 6 November 1984 see column 2, line 27 - column 3, line 44; figures 1,3,6	2,4,10
A	--	13,15
A	US, A, 4488369 (VAN NOTE) 18 December 1984 see column 3, line 3 - column 4, line 6; figures 1,2	1,3,4,7,11- 13
A	US, A, 2826677 (JOBANEK) 11 March 1958 see columns 2,3; figures 1,2,4	12

<small>* Special category of cited documents; ** Document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance; *** earlier document but published on or after the International document which more closely deals on primary subject(s) or which is cited to establish the publication date of another document relating to an earlier document, see, extension of rights or establishment prior to the International filing date but later than the priority date claimed;</small>		
<small>†† later document published after the International filing date of priority date and in the same field of technology which is cited to understand the principle or theory underlying the claimed invention;</small>		
<small>‡‡ document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or novel as compared to such document;</small>		
<small>††† document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the difference between the claimed invention and the document is such that the claimed invention would involve a person skilled in the art, merely to apply known techniques to solve a problem common to both the document and the claimed invention;</small>		
<small>§§ document member of the same patent family</small>		
IV. CERTIFICATION		
Date of the Actual Completion of the International Search	Date of Filing of this International Search Report	
23rd April 1987	26 MAY 1987	
International Searching Authority	Signature of Authorized Officer	
EUROPEAN PATENT OFFICE	M. VAN NOL	

Form PCT/ISA/194 (second sheet) (January 1984)

ANNEX TO THE INTERNATIONAL SEARCH REPORT ON

INTERNATIONAL APPLICATION NO. PCT/GB 87/00011 (SA 15912)

This Annex lists the patent family members relating to the patent documents cited in the above-mentioned International search report. The numbers are as contained in the European Patent Office EDP file on 13/05/87

The European Patent Office is in no way liable for these particulars which are merely given for the purpose of information.

Patent document cited in search report	Publication date	Patent family member(s)	Published on date
US-A- 4367516	04/01/83	None	
US-A- 3526972	08/09/70	None	
US-A- 4481561	06/11/84	None	
US-A- 4488369	18/12/84	None	
US-A- 2826677		None	

For more details about this annex:
see Official Journal of the European Patent Office, No. 12/82

第1頁の続き

優先権主張 ②1986年6月18日③イギリス(GB)④8614788
 ⑦発明者 バンクス, セシル・ヘンリー イギリス国ウエスト・ミドランズ ビー74・3 エルダブリュー, ストリートリー, イングルウッド・グローブ 69